

タイトル

サブタイトル

姓名

2021/1/31 (最終更新: 2021/3/ 2)

概要

ここに要旨

目次

1	序論	1
1.1	序論の 1 節	1
2	試料と方法	1
2.1	試料	1
3	方法	2
4	結果と分析	2
4.1	分析方法	2
5	考察	2
6	結論	2
7	引用のテスト	2

1 序論

いろはにほへとちりぬるを

1.1 序論の 1 節

わかよたれそつねならむ

2 試料と方法

うるのおくやま

2.1 試料

けふこえて

3 方法

あさきゆめみし ぬひもせず

4 結果と分析

色は匂へど 散りぬるを

4.1 分析方法

我が世誰そ 常ならむ

5 考察

有為の奥山 今日越えて

6 結論

浅き夢見じ 酔ひもせず

7 引用のテスト

日本言語学会の『言語研究』執筆要項に載っている文献引用例を基に、引用と参考文献一覧の生成をテストする。この子ファイルは、ご自身の実際の論文生成の際は、親ファイル `main.Rmd` には含めない。親ファイルにて、チャンク名が `bibliography-test` となっている `r` チャンクを探し、下記の通り設定すると、この子ファイルの内容は反映されなくなる。

```
```{r bibliography-test, child='drafts/06-1-bibliography-test.Rmd', include=FALSE,  
 eval=FALSE}
```
```

<http://www.ls-japan.org/modules/documents/LSJpapers/j-gkstyle2020.pdf>

佐久間 (1941)

服部 (1976)

金田一 (1955)

上野 (1997)

柴谷 (1978)

林・南 (1974)

梶 (1992)

橋本 (1966)

Postal (1970),

Kay and McDaniel (1978)

Kiparsky (1968)

Haegeman (1994)

Jakobson et al. (1963)
Sag (1976)
Lieberman (2007)
(佐久間, 1941)
(服部, 1976)
(金田一, 1955)
(上野, 1997)
(柴谷, 1978)
(林・南, 1974)
(梶, 1992)
(橋本, 1966)
(Postal, 1970)
(Kay and McDaniel, 1978)
(Kiparsky, 1968)
(Haegeman, 1994)
(Jakobson et al., 1963)
(Sag, 1976)
(Lieberman, 2007)

参考文献

- Haegeman, Liliane (1994) *Introduction to government and binding theory* Oxford: Basil Blackwell, Second edition.
- Jakobson, Roman, Gunnar Fant, and Morris Halle (1963) *Preliminaries to speech analysis: The distinctive features and their correlates* Cambridge, MA: MIT Press.
- Kay, Paul and Chad K. McDaniel (1978) The linguistic significance of basic color terms. *Language* 54 610–646.
- Kiparsky, Paul (1968) Linguistic universals and linguistic change. In: Bach, Emmon and Robert T. Harms (eds.) *Universals in linguistic theory* 171–202 New York: Holt, Rinehart and Winston.
- Lieberman, Mark (2007) The future of linguistics. In: *Invited plenary address at the 81st Annual Meeting of the Linguistic Society of America*, Linguistic Society of America Hilton Anaheim, January 6.
- Postal, Paul (1970) On the surface verb “remind”. *Linguistic Inquiry* 1 37–120.
- Sag, Ivan (1976) Deletion and logical form. Unpublished doctoral dissertation, MIT.
- 上野善道 (1997) 「複合名詞から見た日本語諸方言のアクセント」 国広哲弥・廣瀬肇・河野守夫（編）『アクセント・イントネーション・リズムとポーズ』 231–270. 三省堂東京：
- 佐久間鼎 (1941) 「構文と文脈」『言語研究』 91–16.
- 服部四郎 (1976) 「上代日本語の母音体系と母音調和」『言語』 5(6)2–14.
- 林四郎・南不二男（編）(1974)『世界の敬語』 8, 敬語講座東京：明治書院.
- 柴谷方良 (1978)『日本語の分析：生成文法の方法』 東京：大修館書店.
- 梶茂樹 (1992) 「テンボ語音韻論：その共時態と通時態」 博士論文, 京都大学.
- 橋本萬太郎 (1966) 「文法構造の関係概念と範疇概念」『日本言語学会第 55 回大会口頭発表』 京都大学； 10 月 16 日.
- 金田一京助 (1955) 「アイヌ語」 市河三喜・服部四郎（編）『世界言語概説下』 727–749. 研究社東京：